

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成9年		
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	01 歴史と文化の輝くまちづくり
	小項目	施策	03 文化芸術の振興
事務事業名	03	加子浦歴史文化館管理運営事業	
根拠法令・規程等	備前市加子浦歴史文化館設置条例		
問	担当課(室)	生涯学習課	
合	職・氏名	係長・石井 啓	
先	電話	64-1841	
このシート作成に要した時間			6.0 時間

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	市内外を問わず、小学生・中学生・高校生・大学生等、また生涯学習ををしようとする人々・歴史研究者・郷土研究者(愛好家)・文学研究者・観光客・資料寄託者・資料寄贈者
目的(何のために)	郷土に関する歴史・民俗・文学資料の収集と保存につとめ、それらを後世に伝え、遺す。で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	当館の入館者のうち、市内の入館者はほとんどなく、ほとんどが観光客である、市の最東端に位置するという立地条件ながら、市民の利用度を少しずつ高め、文化を発信するスポットとしての役割を果たしたい。

Plan

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
加子浦歴史文化館管理運営事業	<p>各種企画展と文化講座の開催。資料整理。</p> <p>・第38回企画展「焼物にかけた情熱 伊部の二奇人 木村示得・鈴木貞成・藤原栄山」(7/21~9/20)を開催、国民文化祭にむけ、陶芸文化にスポットのあつていなかった時代のすくれた陶芸家を紹介して、焼物文化の伝統を振り返る。</p> <p>・貸展展 奥備・西播磨目立園理蔵文化財巡回展「新発見考古遺物展」(11/16~12/12)に協力。この期間は一般開放(入館料無料)とし、東備・西播の文化的交友と集客を図る。</p> <p>・貸展展 岡山国民文化祭提案事業「瀬戸内彫彫会展」(10/30~11/7)に協力。提案事業が入館者に、より親しめるような環境づくり(展示会場)を行う。</p> <p>・第39回企画展「日王の歴史」(12/31/19~3/21)を開催。B1フォルムにきわつこの時期に、地元の「日生の歴史をひも」と企画展によって、郷土の歴史をひろく市内外へアピール。</p> <p>国民文化祭に連動した焼物講座を5回のシリーズで企画。</p> <p>・第21回文化講座 焼物講座一「埴輪から現代まで」講師 備前焼専門家 目賀道明氏</p> <p>・第22回文化講座 焼物講座二「細工物」講師 同上</p> <p>・第23回文化講座 焼物講座三「日本の茶碗 室町から現代まで」講師 同上</p> <p>資料整理</p> <p>・平成22年8月から、「近代郵便の父」とたたえられる坂野鉄次郎(1873~1952)氏の遺品の一部を整理</p> <p>偉大な人物の足跡を調査中。</p>	

Do

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費	必要人員	千円	0.98人	0.88人	0.77人
	必要人員費	千円	5,820	5,177	5,984
決算額	事業費計		10,036	10,664	11,049
	国・県・市・道・支・出・金				
	受・益・者・負・担・金		527	558	483
	線・入・金				
	市・道・支・出・金				
その他(書籍販売)				14	
一般財源		9,509	10,106	10,552	
受益者負担比率	%		5.3%	5.2%	4.4%
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
加子浦歴史文化館の一年間の入館者数	説明		入館者数に文化講座参加者と学習室を利用した人の数を加えたもの		
結果指標量	人		3,103	3,159	3,359
対前年比	%		-	101.8%	106.3%
活動コスト	円		4,175,627	4,884,427	5,984,000
単位当たりコスト	円		1,346	1,546	1,781

結果指標

事業の成果						
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値	
加子浦歴史文化館利用者及び文化講座参加者の人数	目標値(A)	3,250	3,250	3,250	3,250	
	実績値(B)	3,103	3,159	3,358	到達目標値	
		達成率(B/A)	95.48%	97.20%	103.32%	100%
成果指標設定の考え方・式や説明						
加子浦歴史文化館利用者は、展示を観に来館した人と学習室を利用した人の合計。成果指標の設定は、施設利用者に文化講座参加者数を加えた数を設定。						

Check

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 <A~E> B
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> B
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 <A~E> B
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

が事業の目的を達成するための実施した事業の有効性を評価する際の留意点

進行年度(H23年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	平成22年度の日本の財政状況は、非常に厳しかった。しかし国民文化祭に連動した企画を行い、焼物講座をシリーズで計画し、講師の都合で三回しか実現しなかったが、参加者数は非常に多かった。人の興味をひく企画をすれば施設の利用者は増えるということの立証となった。良い企画の立案と効果的な周知の方法のマニュアル化が、今後の課題である。						

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	
平成22年度の事業は、国民文化祭に視点を置き、企画展と講座を計画した。これに加え、国民文化祭提案事業に対し、貸館として協力し、入館者の集客をはかった。文化講座として焼物講座をシリーズで開講し、好評を得、成果指標を十分達成できた。	評価区分 <A~E> B		

Action

平成24年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	インパクトのある面白い企画を行い、貸館としての可能性をさぐり、文化施設のありかたの多様性を模索する。						